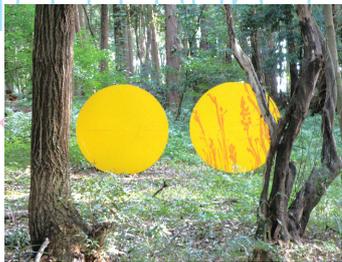


n,10.11.sun-12.mon / midori-ku>>Sozotomorinokoe  
unko Geijyutsusai 9.20.sun,10.1. >11.30.mon /  
uki-ku>>Tsuzuki Art Project 10.11.sun>11.7.sat /  
23.wed YOKOHAMA ART SITE 2009

n,10.11.sun-12.mon / midori-ku>>Sozotomorinokoe  
unko Geijyutsusai 9.20.sun,10.1. >11.30.mon /  
uki-ku>>Tsuzuki Art Project 10.11.sun>11.7.sat /  
23.wed YOKOHAMA ART SITE 2009



# 横浜 アート サイト 2009



横浜アートサイト2009 実施レポート

-23.wed YOKOHAMA ART SITE 2009  
n,10.11.sun-12.mon / midori-ku>>Sozotomorinokoe  
unko Geijyutsusai 9.20.sun,10.1. >11.30.mon /  
uki-ku>>Tsuzuki Art Project 10.11.sun>11.7.sat /

# Yokohama Art site Map



# Contents

- 03 横浜アートサイトとは
- 04 それぞれのアートサイト  
—新たなコミュニティの獲得のために
- 05 Event 01\_Sakae-ku  
さかえ de つながるアート 2009
- 06 Event 02\_Midori-ku  
創造と森の声 2009  
横浜の森美術展 3
- 07 Event 03\_Kanazawa-ku  
第 11 回金沢文庫芸術祭  
「こどもの未来は地球の未来」
- 08 Event 04\_Aoba-ku  
AOBA+ART 2009
- 09 Event 05\_Tsuzuki-ku  
都筑アートプロジェクト 2009  
ニュータウン・ピクニック～遺跡をめぐるアート～
- 10 Event 06\_Minami-ku  
大岡川アートプロジェクト  
「光のぶろむなあと 2009」
- 11 Symposium  
横浜アートサイト 2009 シンポジウム
- 13 Coordinated results  
連携プロモーション
- 14 Event Schedule  
横浜アートサイト 2009 イベントスケジュール

## 横浜アートサイトとは

地域資源を活用してその魅力を発見しながら、アートで人と人を繋いでいく…。

市民やNPO等が展開するこのようなアート活動を「アートサイト」と名付けました。

「横浜アートサイト連携事業」は、横浜市市民活力推進局と公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が

2008年から推進している、このような横浜市各地の「アートサイト」の交流・連携を促進する仕組みです。

それぞれ個別に活動していた団体同士が、情報交換を行ったり、それぞれの得意分野で協力し合ったり…。

そういった協力関係が、より魅力的な事業実施に繋がっていくことを願って始めた取り組みです。

### [1] 「横浜アートサイト2009」参加団体の選出方法

- 参加団体を公募し、書類選考、公開プレゼンテーションを経て、6団体を選出。
- 公募要項
  - 地域資源を積極的に活用し、その魅力を引き出すとともに、事業を通じてコミュニティの活性化を目指すもの。
  - 美術、映像、音楽、舞台芸術などアートにかかわるものであれば、ジャンル不問。
  - 開催地域外からの集客をも図る展開をもつもの。
- 選考のポイント  
オリジナリティ、市民とアーティストの協働、まちの活性化、身近な会場、ボランティア参画の仕組み、自己資金の充実、PR活動など。

### [2] 「横浜アートサイト2009」参加団体

- さかえ de つながるアート実行委員会 「さかえ de つながるアート2009」
- GROUP 創造と森の声 「創造と森の声 2009 横浜の森美術展 3」
- 金沢文庫芸術祭実行委員会 第11回 金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」
- AOBA+ART2009 実行委員会 「AOBA+ART2009」
- 都筑アートプロジェクト2009 実行委員会 「都筑アートプロジェクト2009 ニュータウン・ピクニック〜遺跡をめぐるアート〜」
- 大岡川アートプロジェクト実行委員会 大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2009」

### [3] 「横浜アートサイト2009」支援メニュー

- 助成金の交付
- 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団による共催、横浜市市民活力推進局による共催・後援
- 「横浜アートサイト2009」としての連携広報で広範囲なプロモーションを展開
  - ポスター、チラシを全市域に配布
  - プレスリリース、WEB、実施レポート発行
- 各団体が抱えている課題をもとに研修を開催し、具体的な課題解決と活動の自立を促進。
  - 広報研修、助成金獲得研修
- 各団体が情報交換する機会を設定
  - 意見交換会、シンポジウム
- 各団体の事業展開において必要な各種サポートの実施
  - 所管官庁への申請補助、土木事務所・警察との調整
  - 協力・協賛企業の紹介
  - アーティストや事業実施ノウハウ等の情報提供



広報研修の様子

## それぞれのアートサイト — 横浜アートサイトがつなぐ／もたらす新たなコミュニティ

橋本 誠 (アートプロデューサー)

「地域」という名のコミュニティ／場を舞台としたアートイベント(アートプロジェクトやフェスティバル)は、これから益々、多くの人に必要とされるようになるのかもしれませんが。

今回、限られた時間の中ではありましたが「横浜アートサイト」の各現場をまわり、シンポジウムで各サイトの報告をうかがい、それぞれの地域に集った人々が、アーティストと共に地域の特色を活かしながら主体的に活動している様を見聞きすることができ、そのような印象を抱きました。

もちろん、乗り越えなければいけない問題も多くあります。作品の内容からイベントの運営、それらを支える組織づくりまで、その多くは地域という限定された場でありながら、アートというむしろ地域を開く性質のあるものを扱いながらコミュニティをつくりあげようとしている(もしくは結果的にコミュニティができてしまう)ことから派生してきています。

美術館のように運営母体をはっきりしており、美術作品が展示されていることが自明で、基本的にはそれらを鑑賞するために人が訪れる場では同様のことはあまり問題にならないでしょう。目的やリソース(企画に携わる人材・使用できる物資や空間・予算など)が明確であり、運営手法が確立されているからです。しかし地域型アートイベントの目的は往々にして複雑ですし、リソースも流動的であることが一般的です。また、手法については仮にある程度のガイドラインを作成することができたとして、それぞれの地域モデルを確立する必要があります。

しかもこれは予算が確保され、アートマネジメントのプロがいればある程度のレベルで実現が約束されている類の話ではありません。地域住民も含めて、活動を通して主体的に地域に関わろうとする、言わば「イベントの担い手のコミュニティ」を築きあげ、その中で育てていかなければいけないのです。

また、特に継続的な活動を目指す場合には、「イベントを通して「イベントの担い手やアートにふれる地域の人々／地域にふれる人々」のコミュニティ」からの反応も常に意識しながらプログラムを構築し、活動を応援してもらえるイベントへと成長させていくことも必要でしょう。

このような複数のコミュニティがいかにして有益にかたちづけられ、イベントにおいて顕在化しているか。地域型アートイ

ベントの評価は、そこで展開されているアートプロジェクトの美学的な価値だけにとどまらず、そのような観点からも評価される必要があります。

「横浜アートサイト」はそれぞれの地域の市民やNPOが主体となる活動が対象とされており、アートマネジメントに関わる勉強会の実施や広報面での連携、総括的なシンポジウムの開催などといったイベントの側面的な支援も含めたプログラムであることには、大いに可能性があります。

なぜならば、前述で挙げたようなそれぞれの地域モデルを構築するためには、イベントの担い手がアートマネジメントに関わる基礎的な知識を身につける一方で、具体的な事例にふれたり、同様の立場にある人々と意見交換をしたりするなどしながら、自らの知識や経験を応用する力や、新しい発想で企画を生み出す力を獲得する必要があり、「横浜アートサイト」のプログラムはこれらに対応する内容となっているからです。

特に同一市内にこれだけの数があることを考えると、サイト間の交流は有効だと考えられます。互いのモデルや手法を学び合い、率直な評価をし合うことで常に自らイベントのあり方やそれに伴いできあがっているコミュニティのあり方を問い、更新し続けることができるでしょう。(時にこれは、アーティストのプロジェクトそのものがその一助となります)

全国的に見てみると、アサヒ・アート・フェスティバル(2002年～)や財団法人文化・芸術による福武地域振興財団による助成事業(2008年～)などでも、対象事業の関係者が集う定期的なネットワーク会議や活動成果報告会などが行われています。その狙いは一定の成果をあげているようですが、一方では頻繁に機会を設けることが限られる、それぞれの地域における基本的な環境が異なりすぎる、などといった悩みもあるようです。

その点、それぞれに特色があるとはいえ同じ横浜市の郊外という環境に置かれているアートサイトはより本質的に連携し、もうひとつの「イベントの担い手のコミュニティ」を有益にかたちづくることのできるのではないのでしょうか。そしてその時にはきっと、それぞれのアートサイトがより多くの人にとって必要とされる存在となっているに違いありません。



### Hashimoto Makoto

1981年東京都生まれ。横浜国立大学教育人間科学部マルチメディア文化課程卒業。ギャラリー勤務を経て、2005年よりフリーのアートプロデューサーとして活動。2009年より、東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団)に所属している。主な企画に都市との対話(BankART Studio NYK/2007)、KOTOBUKIクリエイティブアクション(横浜・寿町エリア/2008～)など。

## さかえ de つながるアート 2009

< 栄区 >

「さかえ de つながるアート2009」は、前年に生まれた「地域とつながるアート」を原型とし、さらに「地域に拡がるアート」を展開することができました。区内の様々な場所での作品展示「巡礼・ハートの風穴 new version」や、多彩なワークショップ、その地の歴史や暮らしをアートとともに感じる「アートdeスクール」などを織り込み、場所やスタイルを変えて、3回のイベントを実施しました。また、商店街の店先の「シャッターアート」や、地域作業所とのコラボレーションによる「ハートTシャツ」など、アートの切り口を活かし、地域の資源がつながる企画も生まれました。

### 【イベント概要】

会期：7/18（土）、9/6（日）、10/11（日）～12（月・祝）

会場：栄区内各地（JR本郷駅前広場、千秀センター、上郷・森の家 ほか）

参加アーティスト：北川純、佐々木貴行、原莊介・鎌倉女子大学合唱団、三縄公一と鎌倉女子大学音楽グループ、  
恵ー megumi ー、青剣、アトリエ太陽の子、工房・野楽 ほか

イベント：7/18（土）「さかえ de つながるアート 2009 with キャンドルナイト in さかえ」 JR本郷駅前

9/6（日）「さかえ de つながるアート 2009 in 千秀～アートなお茶会～」 千秀センター

10/11（日）～12（月・祝）「さかえ de つながるアート 2009 in 上郷・森の家」 上郷・森の家

主催：さかえ de つながるアート実行委員会

協賛：財団法人横浜市緑の協会

後援：横浜市栄区

問い合わせ：mail/info@sakae-art.jp <http://www.sakae-art.jp/>



「サイン」北川純+工房・野楽 上郷・森の家にて



「ちょこっとアート」アトリエ太陽の子 上郷・森の家にて



「ダンス」青剣 上郷・森の家にて



「巡礼・ハートの風穴 new version」北川純 キャンドルナイト in さかえにて



上：「ハートTシャツ」北川純+サンライズ  
下：「子守唄トーク&コンサート」原莊介、三縄公一、  
鎌倉女子大学合唱団 上郷・森の家にて

### 【事務局インタビュー】

さかえ de つながるアート実行委員会 委員長 大塚宏さん

2年目の今年は、「地域 de つながるアート」のスタイルを、ほんの少しですが、作れたように思います。アートの切り口のもたらす自由度や、組み合わせの妙が、見慣れた風景の中に新しい風を吹かせたように思います。まちかどに新たな風景が生まれ、人々のまとう衣装に意匠が施され、いつもと同じはずの空が違った形に切り取られ、人々に微笑みが生まれました。通りすがりの人の心の中にさえ、新たなまなざしが生まれたとしたら、それがたとえわずかな人々であったとしても、豊かな実果が生まれることでしょう。いくつもの種子が地面にこぼれ落ちました。冬が過ぎ、春が訪れたとき、「さかえ de つながるアート」の芽が、「つながるアート」を見る眼が、メガの単位で生まれるかもしれません。目が離せませんよ。

## 創造と森の声 2009 横浜の森美術展 3



&lt; 緑区 &gt;

4月から6月は森の会場整備、ルートアート制作、門や看板の制作を行いました。7月は上総掘のプレイイベント。そして8月10日より作品制作期間。海外作家、国内作家7名のアート・イン・レジデンス、作品を制作しました。8月23日のオープニングではセレモニーとアートツアーを行い、その後アートツアーはY150ヒルサイドの出展中9月14日まで、平日1回、土日は2回行いました。そして10月3日のクロージングにてメインのイベントは終了しました。10月からは各アートサイトを訪問し交流を深めました。

## 【イベント概要】

会期：8/23（日）～10/3（土）

会場：横浜動物の森公園予定地

参加アーティスト：クリスチアン・ロスマン、アリ・カイズ、ヘディ・ハリヤント、パット・ホフィー、小宮伸二、安部大雅 ほか

イベント：7/18（土）～20（月・祝）「上総掘で井戸掘り体験」横浜動物の森公園予定地

7/19（日）「森のパン教室」横浜動物の森公園予定地

7/20（月・祝）「ネイチャーゲームで森体験」横浜動物の森公園予定地

7/20（月・祝）、8/16（日）、9/22（火・祝）「森アート体験ワークショップ」横浜動物の森公園予定地

8/15（土）、18（火）、22（土）「ドラムでつなごう人と森」Y150 ヒルサイド会場

8/25（火）～9/14（月）「アートでつなごう人と森」「ネイチャーアート工房」「森からの便り」「素焼きの葉っぱ皿」

「森のお守り」「旅する森」「丸太切り体験」「Y150 会場からのアートツアー」Y150 ヒルサイド会場

主催：GROUP 創造と森の声

共催：横浜市緑区

後援：横浜市環境創造局、横浜市教育委員会、横浜市旭区

助成：横浜開港150周年協会

問い合わせ：mail/morinokoe2@yahoo.co.jp <http://www.morinokoe.jp/>

アリ・カイズ作品への参加者



Y150 ルートアート



森のアート体験ワークショップ



クリスチアン・ロスマン作品

上：ヘディ・ハリヤント作品  
下：上総掘り体験ワークショップ

## 【事務局インタビュー】

GROUP 創造と森の声 事務局代表 石山 克幸さん

4月から6月の準備期間、Y150の会場整備に伴いズーラシア側の森に入口ができたことで閉鎖的であった森が少し開かれ、美大生のルートアートも明るいイメージでその入口を飾りました。これは今年の大きな成果と言えます。7月のプレイイベント「上総掘りによる井戸掘り体験」は、いくつかのアクシデントがありましたが、掘削ワークショップは成功。やぐらの美しさと伝統技術の紹介をアートツアーの中でふれることができました。「横浜の森美術展3」は海外、国内の作家17名による野外美術展として充実したものとなりました。Y150ヒルサイドからの入場者も増え、また中山方面からズーラシアに抜ける市民に美術展の存在を印象づけることができたと思います。Y150への出展は様々な意味で私たちの活動に力と幅を与えるものとなり、また多くの課題を残しました。今後他の地域のアートサイトとの連携も深めつつ森からまちへのつながりを模索していく必要性を強く感じています。

## 第11回金沢文庫芸術祭 「こどもの未来は地球の未来」



< 金沢区 >

「こどもの未来は地球の未来」をテーマにしたアート作品の展示・販売、歌や踊りのステージ、作品づくりのワークショップなど、153の出展者を集めました。また、近隣の小学校に呼びかけ、鼓笛隊やフラッグ制作など4校に参加いただきました。1DAY イベントでは、ロコ・サトシやアイヌ・アートプロジェクトを招聘したり、金沢区主催のサンドアートフェスティバルと協働しました。街角アートラリーでは、出展者同士の交流会やスタンプラリーを企画しました。

### 【イベント概要】

会期：9/20（日）、10/1（木）～11/30（月）

会場：海の公園、金沢区内および近郊各所

参加アーティスト：ロコ・サトシ、アイヌ・アートプロジェクト ほか

イベント：9/20（日）「1DAY イベント」海の公園

10/1（木）～11/30（月）「街角アートラリー」金沢区内および近郊各所

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会

後援：神奈川県教育委員会、tvk、FMヨコハマ、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、

横浜市金沢区、横浜金沢観光協会、横浜商工会議所金沢支部、金沢三師会、

横浜金沢産産業連絡協議会 ほか

問い合わせ：mail/info@bunko-art.org <http://www.bunko-art.org/>



1DAY イベント  
虹の翼隊フラダンス



街角アートラリー  
村山二郎ライブ&ライブ  
ペインティング



街角アートラリー  
手彫り地蔵ワークショップ



1DAY イベント サンセットパレード



上：1DAY イベント 先住民族広場



下：1DAY イベント エイサーパレード

### 【事務局インタビュー】

金沢文庫芸術祭実行委員会 実行委員 井上えつこ さん

快晴の海辺の公園での1DAY イベントは、15,000人を集める大盛況、その後の2ヶ月間の街角アートラリーは、2,000人を動員する盛り上がりとなりました。どこへ行っても出会える笑顔は、まさにスタッフ冥利につきました。今回の1DAY イベントの成果として特筆したいことは、ゴミ削減の取り組みとして、フード出展者への告知を徹底し、植物性由来のエコ食器を使ったこと、昨年からはじめた先住民族広場が20件の出展者を集め、より充実したことでした。さて、次回へ向けての課題は、出展者の情報管理などの事務処理方法を簡素化し、メインスタッフにかかる負担を軽減することです。ふたを開けてみるまで何が起こるかかわからない、そんな自然の成り行きを大切にしたい金沢文庫芸術祭実行委員会ならではのやり方を追求していきたいと思っています。

# AOBA+ART 2009

< 青葉区 >



「あたらしい交流や発見をつくりだす住宅街の美術展」として、住民と協働でつくりあげました。実行委員に自治会長を経験された方など、複数の住民に参加してもらい、2008年の第1回よりもより地域の特性や問題点にフォーカスした展覧会とすることができました。2009年は写真や多数のワークショップをメインに、個人住宅や公園、空きガレージ空き商店を利用して昨年からの継続も含め7名の作家による作品を展開。期間中、住民たちが主催するカフェやアーティストが率いるお散歩ツアーも好評を博しました。

## 【イベント概要】

会期：10/10(土)～11/3(火・祝)

会場：たまプラーザ駅周辺の住宅街(美しが丘)、公園、歩道橋 ほか

参加アーティスト：池田晶紀、小粥丈晴、森本美絵、江口宏志(ユトレヒト)、池田光宏、原高史、ima

イベント：6/27(土)～9/19(土) プレイベント 全11回

10/10(土)「オープニングツアー&パーティー」美しが丘中部自治会館

10/11(日)「ニコニコ・ポートレート撮影会」美しが丘中部自治会館

10/17(土)「つくろう! 想像どうぶつ図鑑」美しが丘中部自治会館

10/17(土)「森本美絵スクリーニング」美しが丘中部自治会館

10/18(日)「泉守りの旅」カバ公園

10/18(日)「マダム会カフェ」美しが丘中部自治会館

10/24(土)「親子で安心! ケータイで遊ぼうワークショップ」美しが丘中部自治会館

10/25(日)「サイクリングツアー」インフォメーション・センター

10/31(土)「お散歩ツアー」インフォメーション・センター

11/1(日)「スポーケンワーズプロジェクト ワークショップ」

11/3(火・祝)「クロージングツアー&パーティー」



夕食メニューを掲示する住民参加型作品



パーティーのお料理は美しが丘マダム会の皆さんから



普段はお住まいの家のサニールームも展示スペースに

主催：AOBA+ART2009 実行委員会  
 後援：横浜市青葉区、青葉区連合自治会長会、美しが丘連合自治会、東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園、横浜市立美しが丘中学校 ほか  
 協賛：株式会社ウィルコム、プリンク、イツツ・コミュニケーションズ株式会社、富士フイルム、横浜美術短期大学 ほか  
 問い合わせ：mail/info@aobaart.com <http://www.aobaart.com/>



地域の方が好意で貸して下さったガレージを作品化。中を覗くと子どもたちが…。(池田晶紀作品)



上：ポスターはワークショップで1枚ずつ手描きです  
 下：「ニコニコ・ポートレート撮影会」の様子

## 【事務局インタビュー】

AOBA+ART 実行委員会 実行委員 嘉村真由美さん

2008年に初回開催し、「3年に1度の現代美術展」を目指しながらも、住民の方からの評価も高く、今回も展覧会を開催する運びとなったAOBA+ART。7名の参加作家の作品特性や使用できる会場状況も鑑み、AOBA+ARTらしい展覧会内容とするため、ワークショップや「お散歩ツアー」を多数開催しました。当初の目的は住宅街におけるアートの可能性を探ると同時に、地域のコミュニケーション不足の解決をはかることでした。しかし、住民の方との会話を多く持つにつれ、地域の問題点…高齢化、ご近所同士のディスコミュニケーション、居住者の減少などを少しでも解決できるのではないかという方向に、思いを強めていったのも事実です。今後は本年度の経験と反省を活かし、継続のための組織づくりと、地域との連携に重点を置き、アートの持つ可能性や楽しさも伝えていけたらと思います。

## 都筑アートプロジェクト 2009

### ニュータウン・ピクニック～遺跡をめぐるアート～ < 都筑区 >



ニュータウンの中にある遺跡公園・古民家を背景に、積極的な交流の場を提供するプロジェクトを今年初めて実現する運びとなりました。アート展では作品展示とパフォーマンス、アートツアー、ワークショップを開催し、アートフェスタではパフォーマンス、ライブ、模擬店を実施することで、地域の方にもアートプロジェクトの開催を印象づけました。歴史博物館や民家園のボランティアの方など多くの協力者を得たことでこの多様性を表現でき、積極的に参加して下さった作家の充実した展示を実現することができました。

#### 【イベント概要】

会期：10/11（日）～11/7（土）

会場：横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡公園、都筑民家園

参加アーティスト：今井紀彰、上野雄次、岡本敦生、奥野美果、開発好明、鬼頭明稚、塩谷良太、中田ナオト、久村卓、フランシス真悟、三宅光春、文殊の知恵熱ほか

イベント：6/5（金）～6/7（日）「花あそび」都筑民家園

10/3（土）「お月見ライブ」都筑民家園

10/31（土）「はないけランド」都筑民家園竹林、大塚・歳勝土遺跡公園

11/3（火・祝）「タイムスリップオーケストラ」会場全域

10/25（日）、11/1（日）、3（火・祝）「アートツアー」会場全域

10/24（土）～25（日）、31（土）～11/3（火・祝）「オモヤカフェ」都筑民家園

10/11（日）～12（月・祝）「アートフェスタ」大塚・歳勝土遺跡公園 体験広場

主催：都筑アートプロジェクト2009 実行委員会、横浜市歴史博物館、大塚歳勝土遺跡公園都筑民家園管理運営委員会

協賛：ノースポート・モール

後援：横浜市都筑区、㈱タウンニュース

協力：e-プロジェクト Kita、大塚歳勝土遺跡公園愛護会、オモヤカフェ「おとなのままごと」、キャノン株式会社、南串田酒店、センター北ハマロードサポーター、都筑ファーム、都筑フードネット、都筑民家園協力者グループ、横浜国立大学「食を中心としたまちづくりプロジェクト」、横浜市立中川小学校、ヨコハマ都筑ミュージカル大道具、サウンドM、横浜ロックサークル

問い合わせ：mail/info@tsuzukiartproject.org <http://tsuzukiartproject.org>



三角柱ポスター  
© 桜井健雄



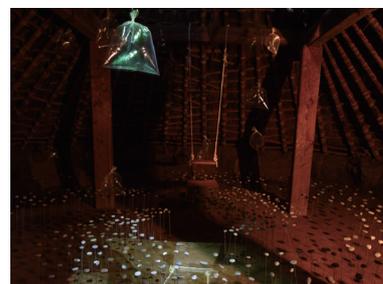
久村卓 作品  
© 今井紀彰



中川小学校  
ワークショップ風景



文殊の知恵熱パフォーマンス © 今井紀彰



上：三宅光春作品 © 今井紀彰  
下：アートツアー © 今井紀彰



#### 【事務局インタビュー】

都筑アートプロジェクト2009 実行委員会 委員長 金井聡和さん

今回のプロジェクトは、横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡公園全域における初の試みでした。歴史的な時間とアートという切り口で企画された展覧会では、場所性を活かした作品を手掛ける25組の作家の協力が得られたことにより、時間の層が垣間見える場所とアートの表現が相補いつつ高め合うというユニークな展覧会が概ね実現出来たと思います。プロジェクト全体では、若い世代の集客を促し、歴史的な場の新たな活用の可能性を示すことができたアートフェスタや多様な媒体を使った広報活動、安全な展覧会運営を実現した展覧会ボランティアなど、幅広い世代にわたる地域内外の有志の関わりが重要な役割を果たしました。今後、遺跡公園を中心にした展覧会の内容と関連する企画の質を高めていくための創意工夫が求められています。また、予算の縮小が懸念される中、ますます自前の予算獲得が課題となると思われます。

## 大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあと2009」

< 南区 >

吉野町～南太田の間に流れる大岡川周辺の遊歩道に和紙を使った暖かいあかりのオブジェを点在させ、首都高の橋げたをライトアップして「光の回廊」を造りました。これに加え、黄金町バザールとの連携による5人の作家の光をテーマにした作品を、蒔田公園や橋、町内会館に展示しました。メインイベントでは地域の子どもたち制作の5,000個のキャンドルホルダーに火をともし「キャンドルナイト」とともに「光のコンサート」を実施。地元町内会による屋台「ほっとHotカフェ」が応援となり、寒い中約2,000人が幻想的な冬の夜を楽しみました。

### 【イベント概要】

会期：12/19(土)～23(水・祝)

会場：蒔田公園、蒔田公園周辺の大岡川流域、高速道路高架橋、フォーラム南太田、吉野町市民プラザほか

参加アーティスト：中村敬、北川貴好、さかもとゆり、竹本真紀、フタミフユミ、本間純、山野真悟(監修)、共進中学校美術部、蒔田中学校美術部、日枝小キッズクラブ×椎橋良太、ビッグバンド NAZCA、ジェリクルーY、和太鼓 撥當 ほか

イベント：12/19(土)「点灯式&オープニングコンサート」日枝小キッズクラブ前

12/19(土)「合唱コンサート」フォーラム南太田1階ロビー

12/20(日)「キャンドルナイト」「光のコンサート」「ほっとHotカフェ」蒔田公園

12/20(日)・23(水・祝)「びっかりーをさがせ!」会場内11箇所回遊

12/23(水・祝)「アート見学ツアー」「アートサイト交流会」会場内アート見学

主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会

後援：横浜市南区、神奈川新聞社、tvk、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会

協賛：株式会社神奈川機関紙印刷所、横浜建物管理協同組合、神奈川トヨタ自動車株式会社南店(au取扱店)、鹿島・五洋・松尾建設共同事業体、株式会社山武、株式会社平岡電機工事、ヤマミュージック東京横浜店、医療法人佐藤病院、お三の宮通り商店会、お三の宮まちづくり委員会、嵯峨乃家本店、横浜信用金庫吉野町支店、有限会社横浜バッチ製作所、株式会社ウォーキングハーモニー、テラ・アマータ、サークルK横浜宮元町店、MARC(マール)、おはしガスト宮元町店、三本コーヒー株式会社、フジ横浜南店、ミナミファーマシー、レティシアの月、アルファ・ペットクリニック(順不同)

問い合わせ：mail/ohokagawa.art@gmail.com <http://ohokagawaart.web.fc2.com/>



冬の蒔田公園に咲いた桜(南区の花)

### 【事務局インタビュー】

大岡川アートプロジェクト実行委員会 アートディレクター 中村 敬さん

「光のぷろむなあと」は今年2回目の開催。企画コンセプトの立案から始まりみんな手探りで進めた結果、6つの柱「ライトアップ・光の回廊・キャンドルナイト・アート作品・コンサート・屋台街」が立ち上がり、全てが工夫とアイデアの賜物、手作りの催しとなりました。会期中には大岡川周辺の各町内会の方たちが、作品の点検と警備に寒空の中何度も見廻りをしてくださる等、地域の力は何物にも代えがたいものでした。本企画は2008年に吉野町市民プラザでスタートし、今年も市民プラザさらにアート連携企画では黄金町バザールの方々に深くお世話になりました。両団体への感謝・敬意と共に、企画運営のノウハウやモチベーションの維持を、いかに市民主体へ移行させて行くかが今後の課題だと考えています。



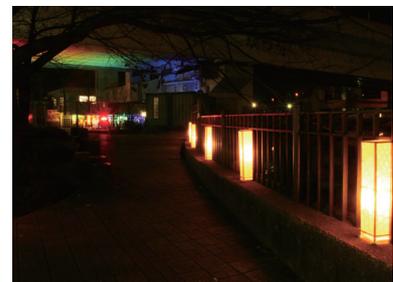
キャンドルナイト



「光のコンサート」風景



キッズ「光の果実」



上：「光の回廊」

下：「ひかりの標本」フタミフユミ

## 「横浜アートサイト 2009 シンポジウム」 ディスカッション

開催日：2010年1月16日(土) 会場：ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター

<ファシリテーター> 橋本 誠 (アートプロデューサー)

<特別ゲストコメンテーター> 山野真悟 (黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長)

大塚 宏 (さかえ de つながるアート実行委員会 実行委員長) / 石山克幸 (GROUP 創造と森の声 事務局長代表)

浅葉 弾 (金沢文庫芸術祭実行委員会 事務局長) / 本間 純 (AOBA+ART2009 実行委員会 ディレクター)

菊池由紀子 (都筑アートプロジェクト2009 実行委員会 実行委員) / 中村 敬 (大岡川アートプロジェクト実行委員会 アートディレクター)

菅原幸子 (横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ担当グループ長)



**橋本:**「横浜アートサイト2009」への参加団体は、新規に活動を開始した団体と長年継続されている団体に分けられると思うのですが、まず2年目の「さかえ de つながるアート」の皆さんは、主にどういった方々が運営に携わっているのでしょうか？また、継続する為にどのようなことをお考えですか？

**大塚:**我々はきっかけが、アートサイトを栄区で開催するという事で、様々な種類の地域活動をしている人に声がかかった中で始まっています。その中で徐々に自分たちのカラーが出来てきて、実行委員が提示した「つながるアート」というキーコンセプトが合言葉になって続いています。無理して続けようとは思いませんでしたし、続けざるを得ないかということの検証に時間をかけた事もあり、今年度は前年度よりはるかにスムーズに進んだと思います。私達がひとつの芥子粒となって、栄という街をアートという切り口を持ちながら、人や街や自然がつながっていくというきっかけぐらいは出来ているのかなあと。そういう意味では住民の方から、「栄でこんな風を楽しめるとは思ってもいなかった」という感想をいただいた事があって、少しは効果があったのかなと思っています。

**橋本:**「創造と森の声」と「金沢文庫芸術祭」は、10年以上長く続いている秘訣と、次への展望などをお願いします。

**石山:**13年前から始まっていますが、ディレクションという気持ちは全然なく、運営もひとつの決まった形がありませんでした。毎年繰り返しながら、少しずつ「運営も創造もひとつ」という感じで、ずっと続けてきたのが、わたしたちのスタイルですね。たぶん市民活動はそういうスタイルしか無理なのではないかと、わたしは思っています。実は、森という場所でやってきたので、最初は「地域」なんて全然意識していなかったんですね。ただいろんな方達が関わってくる中で、「これは地域のイベントなんだ」と気が付いてきた。気が付いてきたら、やはりそれを取り入れなければならない。森を守ろうとする自然派の人達と対立した事もありますが、その人達も取り込んで行く中で、我々の

活動も続けて来られる。ただ毎年、「来年できるのかな？」という危機感をいつも持ちながら、「どうやったら続けていけるのか」という事を課題にやっています。

**浅葉:**石山さんがおっしゃった事と大分同じですね。これまで11回やってきて、毎回スタッフが増えていき当然卒業していく人もいて、「いかにスタッフをやる気にさせて、長くいてもらえるか」というのが、事務局長として自分の一番の仕事だと考えています。スタッフには「ここは本気の大人の遊び場だから、義務とか手伝いとかではなくて、自分のやりたい事を見つけて、ここでやりがいを見つけてほしい」という言い方をいつもしています。とにかく僕達のスタンスとしては「常に楽しむ事」を前提に、「遊びは本気で」という意識を持っている。長くやる秘訣は、やはり「スタッフのモチベーションの持続」が一番。「なぜここまで続けてこられたのか」というのは、みんなで励まし合ってやってきたからだと思います。

**橋本:**「AOBA+ART」「都筑アートプロジェクト」「大岡川アートプロジェクト」の皆さんも、新規で始められこれからが勝負という時期だと思います。そういった面で継続の為に考えの事はありますか？

**本間:**僕は1年目の最初アーティストとして入り、途中からディレクターという立場になったんですが、そんな事はやったことがなかったので必死でやりました。その中で面白い作品が多様な形でそこがあれば、まずは住人の方達がAOBA+ARTの存在を分かってくれ、協力してくれる方も出てくるのではと考えました。2年目の今年は「組織づくりをしましょう」となりましたが、僕自身は作家なので、その着地点や方法が全然わからなかったんですね。でも今年は住民の方達から「こうしたらどうか」と、より一歩踏み込んで一緒につくっていくような声が出てきました。そういった話を良く聞く機会を設けて、その上で地元の住民・企業・商店とコミュニケーションを取りながら、出来る事を探っていく方法をとっています。その中で、そこでしかできない、



大塚 宏



石山 克幸



浅葉 弾



本間 純



菊池 由紀子

アートとして本当に面白い新しい事をやりたいと思っています。

**菊池**：都筑は本当に必死でした。というのはプロジェクト組織を作るということが初めてで、過去3年間は作家による自主運営のアートショーを民家園で行うというスタイルでした。メインである「アート展」は、制作と仕事で多忙なアーティスト6名が実行委員ということで、どこまで運営に関わる事ができるかという中で、遺跡での初めての企画を実現させたいという思いでここまできたのが実際です。そこに「アートフェスタ」「広報」という新しい企画が加わり、3本を同時進行する形になりました。まずは内部組織をしっかりさせたいというのが一番にあり、歴史博物館、大塚歳勝土遺跡という特異性のある場所を使って面白いアート展をやりたいという欲もありましたので、その両方を考えて今年は終わってしまいました。来年は規模を小さくし、もう少し運営のしやすい形で充実させたいという事を今話し合っている最中です。

**中村**：大岡川の場合、吉野町市民プラザという施設と僕との関係から始まった経緯があります。実行委員数自体かなり少ない中あれだけのことが出来ているのは、吉野町市民プラザにマネジメントを随分と助言やサポートしてもらっているからです。彼らはプロフェッショナルなので、大変なことでも何とかやってくれる。けれどそれを市民主体に移行できるのか、という事をすごく悩みました。普段は自分の仕事をしながら活動する市民の方達に、プロのマネジメントを求めるといのは実は難しいとわかりながら、それをどう出来る形に持っていかというのはすごく大変な作業で、その部分で僕は今回すごく悩んだり、頑張ったり、空回ったりしていました。それを今度、実行委員会の会議で「今年、実は連携というのをこう進めて、僕がどう悩んでいた」「アーティストがどういう考え方でどう動いているのか」という事を、みんなに伝えて行かなければと思っています。

**橋本**：葛藤や迷いも含めて共通する課題のようものも見えたと感じました。財団としては、アートサイトとして2年目であり、狙いの部分も含めて気付いた点がありますか？

**菅原**：私達の役割は、各団体の連携と交流を促進することです。「連携・交流」というのはとても良い言葉ですが、ただ漠然としていて「連携や交流して何か良い事があるの？」というのは、昨年度はそれほど実感がなく、とにかく参加団体に何らか関わってもらう事に一生懸命でした。今年度は各団体が他のアートサイトを見に行つて意見を聞いたり、自分達の活動にフィードバックするなど自主的に動き出し、「交流や連携って、こういう事だったんだ」と分かりました。それはこちらから仕掛けていくだけで

なく、現場から動き出して初めて意味を持ってくるものだと実感しました。それから自分にとっても大きな気づきが3つありました。第1に、地域に基盤を持つ団体ならではの人脈作りやアイデア、例えばアクセスの悪い会場への送迎に幼稚園バスを無償提供してもらった事。第2に、市民のアート活動の現場の課題を、私達もリアルに掴むことが出来たという事で、これは今後支援の仕組みを考える上でも参考になりました。最後は個人的な感想ですが、自分自身が住んでいる街の地域性・住民について自然に考えるようになった事、これはアートサイトの皆さんとの関わりの中で起こった私自身の変化なのではないかと思います。先ほど、橋本さんから『横浜アートサイト』として来年以降やってみたい事は？とありましたが、むしろ皆さんのほうから「こういう事をやってみたい」とどんどん提案してもらえるような、そういった関係を作っていけたらと思っています。

**橋本**：では山野さんに、これまでのところでヒントになるようなお話をいただけたらと思うのですが。

**山野**：皆さんのお話から、まず共通に括らなければいけないポイントとして、1つは「お金」の問題ですね。こういう仕事をする時には必ず、続けたくても続けられない状況が来る時があります。そして特にアートサイトでは「地域との関係をどう形成していくか」という、元々地域の方がスタートしたもので改めて起こってくる大変重要な問題と、場所の特性をどう活かしていくかの拠り所となる「立地」。また、この事業の宿題でもある「外部からの集客」。外部から人を呼び込む視点の有無・集客方法という、これはそのまま広報の話に繋がりますね。そして非常に重要な「スタッフ・組織をどう作っていくか」という事。いろんなパターンがあるようですが、誰かの顔を見るとそのプロジェクトが見えてくるような、核になる「顔」をつくられるといいと思います。それから「組織の専門性」。これは簡単なものではないので、1～2年で出来ればやめてほしくないですね。それと一番重要な事として「アートとしての質」を意識してほしいと思います。質を落とさずにどう人にたくさん来てもらえるかが一番重要な所ですので、ぜひそれを維持していただきたい。最後に「連携」ですね。今この近辺の組織で、「どう連携を取るか」という話をいつもしています。今日ここにいらっしゃる方はもちろん、同様の活動をされている方達が市内・県内にいるはずなので、今後少しずつ掘り起こしていく必要があると思います。

**橋本**：東京で市民・NPOと一緒に地域展開する「東京アートポイント計画」というプロジェクトをやっているの、そういった立場からも、私自身大変勉強させていただきました。ありがとうございました。



中村 敬



橋本 誠



山野 真悟



菅原 幸子

## 連携プロモーション

「横浜アートサイト2009」に参加した6団体の連携プロモーションツールを作成し、鉄道広告・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・WEBサイトなどのメディアや、市内文化施設各所などを中心に単独のアートサイトでは難しい広範囲な広報を展開。横浜アートサイト全体、また各アートサイト単位でも、多くのメディアに取り上げていただきました。



横浜アートサイト2009 ポスター (B2 サイズ)



横浜アートサイト2009 電車窓上ポスター (B3 インターサイズ)



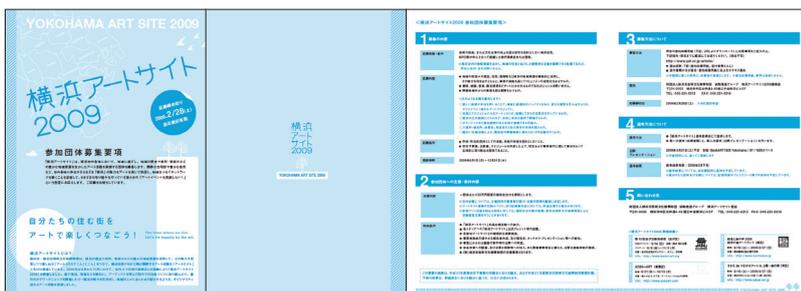
横浜アートサイト2009 電車中吊りポスター (B3 サイズ)



横浜アートサイト2009 ちらし (A4 サイズ)



横浜アートサイト WEB サイト



横浜アートサイト2009 募集要項 (A3 サイズ)



シンポジウム+展示ちらし (A4 サイズ)

# Event Schedule

## 横浜アートサイト 2009 イベントスケジュール

2009

1月下旬 参加団体公募開始

2月28日 公募締切

3月初旬 第一次書類審査

3/21 **第二次選考「公開プレゼンテーション」**  
@ BankART1929



3/21 第二次選考「公開プレゼンテーション」

3/27 参加団体決定・発表

4月～5月 各アートサイト個別ヒアリング

5/30 広報研修「記者が喜ぶプレスリリースの書き方」  
@ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター  
講師/高田久美子(神奈川新聞社 編集局 文化部記者)



9/26「助成金獲得研修」

研修は、セミナー後にランチを食べながらのフランクなフリートーク・ディスカッション形式で実施。その中で生まれた新たな疑問、各サイトでの具体的課題などを共有し、講師の方から解決のヒントをいただきました。

9/26 助成金獲得研修  
**「来年度へ向けての助成金情報と獲得法について」**  
@ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター  
講師/若林朋子(企業メセナ協議会 シニア・プログラムオフィサー)

7月～12月 各アートサイト事業開催

2010

1/15～18 **「横浜アートサイト2009展」**  
@ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター



1/13～15「横浜アートサイト2009展」

ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター1Fホールを使用し、今年度の活動・作品を一挙に展示。アートサイト全体を俯瞰できたと共に、会場内で鑑賞しながら併設カフェの飲食が可能だったことも、来場者に好評でした。

1/16 **「横浜アートサイト2009 シンポジウム」**  
@ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター  
ファシリテーター/橋本 誠(アートプロデューサー)  
特別ゲストコメントーター/山野真悟(黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長)  
プレゼンテーション/各アートサイト代表者

**「横浜アートサイト2009 交流パーティー」**  
フード・クリエーション/ EAT&ART TARO (フード・アーティスト)

※敬称略

1/16「交流パーティー」

EAT&ART TAROさんが、全アートサイトにヒアリングして用意した食材とその紹介プレゼンテーションで、食の側面から「横浜アートサイト2009」を振り返り、来場者全員のコミュニケーションがより一層深まりました。



# YOKOHAMA ART SITE 2009

sakae-ku>>Sakae de Tsunagaru Art 7.18.sat,9.6.s

8.23.sun>10.3.sat / kanazawa-ku>>Kanazawab

aoba-ku>>AOBA+ART 10.10.sat>11.3.tue / tsu

minami-ku>>Ohokagawa Art Project 12.19.sat

sakae-ku>>Sakae de Tsunagaru Art 7.18.sat,9.6.s

8.23.sun>10.3.sat / kanazawa-ku>>Kanazawab

aoba-ku>>AOBA+ART 10.10.sat>11.3.tue / tsu

minami-ku>>Ohokagawa Art Project 12.19.sat

sakae-ku>>Sakae de Tsunagaru Art 7.18.sat,9.6.s

8.23.sun>10.3.sat / kanazawa-ku>>Kanazawab

aoba-ku>>AOBA+ART 10.10.sat>11.3.tue / tsu

minami-ku>>Ohokagawa Art Project 12.19.sat

sakae-ku>>Sakae de Tsunagaru Art 7.18.sat,9.6.s

8.23.sun>10.3.sat / kanazawa-ku>>Kanazawab

aoba-ku>>AOBA+ART 10.10.sat>11.3.tue / tsu

minami-ku>>Ohokagawa Art Project 12.19.sa

sakae-ku>>Sakae de Tsunagaru Art 7.18.sat,9.6.s

8.23.sun>10.3.sat / kanazawa-ku>>Kanazawab

aoba-ku>>AOBA+ART 10.10.sat>11.3.tue / tsu

